

また、天草を拠点とする別の座頭の芸能集団があったようである。

これまで「釜節語り」の語る笑い話もあったと考えられるが、採録されていない。

5. 古文書に見える佐賀の座頭

宝永8（1711）年2月18日、盲僧崎川勾当という盲僧が5年に一度、参賀のため上京することになっていたが、小城鍋島家日記に「長寿院様御伽相勤おとぎあいつとめ二依より」と記され、上京が許されていない。この盲僧は小城鍋島家の長寿院に仕える御伽衆の役割を果たしている。このことから、肥前と京の口承文芸における伝承伝播者であったと推定される。

『葉隠聞書』8中に「直茂公お伽とぎの衆に」、同45中に「在時御伽の衆、直茂公に」という記述が見える。つまり、肥前の藩主鍋島直茂は御伽衆とキャッチボールをしていたと言える。

6. 結びにかえて

座頭話は笑い話を中心である。「座頭の8人道中」「座頭さんと女中」「馬鹿座頭」「荒神座頭こうしん座頭」などがあるが、座頭自身が聴き手から笑われる立場の主人公になって、自分自身の失敗談が語られている。笑われることは座頭にとって精神的なショックである。

しかし、そのことを彼らは意識している。座頭が笑われる立場になって語ることは、聴き手の気持を引きつけたという意図があったに違いない。そして、座頭の語る笑い話は、檀家の一定の宿泊先や、つるし柿の皮をむく場で語る「柿むき話」こそ、山間地域の代表的な民間伝承であった。

いま、学校では子どもたちの将来を生徒自身で探求させ、働くことの意義や面白さを体験させる職場体験学習事業が進められています。

6月に体験学習をした生徒からの礼状の一部を、本人の了解を得て紹介します。

拝啓

先日は職場体験をさせて頂いてありがとうございました。おかげさまで貴重な体験をさせて頂き、皆様が私たち利用者のために色々な努力をしながら身を粉にして働いていらっしゃる事が分かりました。

また、丁寧な説明をして頂き、仕事の内容や、なぜその仕事をするのかなどが分かりました。そして、「働く」ということは、誰かのために必死になり尽くすことなのだと思います。

さらに、県立図書館には、56万冊の本があり、町の図書館でも県立図書館から借りられることを知り、驚き、嬉しくも感じました。

今回のことで私は、自分の今後の生き方について深く考えました。「司書になりたい」という気持ちと自分に司書という仕事があるのか不安がありますが、本が好きですし、職場体験をして、一層強くなった気持ちから、司書への夢を目指したいと思います。

これから本を借りる時に陰で努力されていることも考えて、その方たちにも感謝をしつつ借りようと思いました。

とりあえずお礼を申し上げます。

末筆ですが、皆様のご健康と今後のご活躍をお祈りいたします。

敬具

致遠館中学校 2年 宮地陽子
(みやき町在住)

